

へばだば

62

編集・発行：自立生活センターPingあomorい・就労継続支援B型事業所スタジオとまと・特定非営利活動法人ピアネット
038-0011 青森市篠田1-8-1 エムズコーポ101/tel.fax：017-761-2770/e-mail：ping@ping-aomori.jp
http://www.ping-aomori.jp/ping_page/index.htm 発行責任者／佐藤 広則

「へばだば」＝津軽弁で、「じゃあね」というような意味。

Present

北海道檜山振興局主催

『ひやまバリアフリーレジャー事業』モニターツアー

9月8～9日、北海道檜山振興局主催の『ひやまバリアフリーレジャー事業』モニターツアーに参加するため、檜山地域に行ってきた。

この度の「平成30年北海道胆振東部地震」の被害に遭われた方に対し、心からお見舞い申し上げます。

ツアーが行われたのは、この地震が発生してから二日後のことだった。直前までツアーが開催できないのではないかと考えていたが、北海道新幹線の運転再開によって開催されることになった。開催すると電話が来た時は、開催できないと思っていたので、とても驚いた。



木古内駅構内

9月8日、新青森から北海道新幹線に乗り、木古内駅に向かった。木古内駅で現地の関係者のみなさんとお会いし、合流した。障害者は自分一人だったが、周りの方々だけで総勢八名ぐらいになってしまった。

最初に向かったのは、上ノ国町。上ノ国町は、太平洋側の木古内町からちょうど反対の日本海側にある北海道で一番早く拓けた街だ。最初に立ち寄ったのは、国の重要文化財である旧笹浪家住宅。ここは、上ノ国町で代々鯉漁を営んできた旧家の一つだ。建物は、江戸から明治時代に建てられたものだそうだ。ヒバと呼ばれるエゾヒノキがふんだんに使われている。

次に向かったのは、室町時代にこの地にあったとされている勝山館という山城だ。歴史の教科書では、室町の最初の頃、アイヌと当時の日本人はコシャマインの戦いなど戦いを常に繰り返していたと聞いてきた。しかし、戦は室町の最初の頃だけで、中後期の頃にかけては、アイヌと当時の日本人は一緒に暮らしていたのではないかとみられる出土品が勝山館で発掘された。

上ノ国町を後にし、乙部町に向かった。乙部町で、ホタテの貝殻についているゴミを取る体験をした。初めて、釣りたてホヤホヤのホタテを切ってもらって、海水に付けて岸壁で食べたが、あまりの美味しさで言葉が出なかった。

同じく乙部町内にある「バリアフリーホテルあすなろ」に宿泊した。温泉入浴介助は、ホテルの従業員がやってくれた。このサービスは、一人で旅行に行きたい障害者がすごく助かるなと感じた。ホテルの部屋も全く問題はなく、本当に文字通りバリアフリーだと感じた。いろいろな人が泊まれる最高のホテルだなと感じ、驚いた。

ホテルの近くにセイコーマートがあったので北海道に来た記念に行ってみることにした。コンビニは、地震の影響をもろに受けていた。買ったアイスが停電で溶けており、おにぎりやパンや弁当等が陳列棚になかった。

(次ページに続く)



9月9日、ホテルを出発した一行は江差町に向かった。江差町は、江戸時代中期に鯨漁で栄えてきた町だ。観光ガイドさんは、江差町が1993年の北海道南西沖地震で津波に遭ったことや町役場の前の道路が海だったことなどを紹介してくれた後に、国の重要文化財である旧中村家住宅に案内してくれた。旧中村家住宅は「江差の五月は江戸にもない」といわれるくらい鯨漁で栄えた街の歴史を今に伝えている。



中は、立派な倉庫や本物の隠し階段、様々なお宝がたくさんあった。

旧中村家住宅から姥神大神宮までの通りは江戸から明治・大正にかけての建物が再現されている通りである。街並みは風情があって綺麗だった。



姥神大神宮は、鯨と深く関わっているが、それを語ってしまうと長くなるので割愛する。

次に向かったのは開陽丸だった。

開陽丸は、幕末に製造されたオランダ製の幕府の最強の軍艦であったが、江差沖で沈んだ。

榎本武揚が旧幕府軍を率いて江差を占領したが、暴風雪に逢い沈没したということを知り、幕末史は本当に奥が深いなと感じた。

最後は、江差追分会館に行った。江差追分は名前しか聞いたことがなく、実際どういうものかを知らなかった。今回、公演を生で聞き、歴史的背景や追分会支部が全国・海外にあることを初めて知った。追分会館には、姥神大神宮渡御祭の時に使われる豪華絢爛な山車（やま）も展示されていた。



開陽丸



今回の旅行に携わって下さった皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（白戸駿平）

白戸駿平の福祉タクシー見聞録

番外編

7月4日、新聞社の記者が Ping あおもりに電話をかけてきた。「今、新聞でユニバーサルデザインタクシー（UDタクシー）のことを取り上げたいと考えている。そこで、話を聞きに行きたいと考えているが、その時にタクシーに乗っている様子なども見てみたい。」という内容だった。青森市内を走っているUDタクシーは、へばだば59号の小欄でも取り上げた日産自動車が開発したNV200を運行している会社と、トヨタ自動車が開発したジャパンタクシー（タクシー専用車種名）を運行している会社とに分けられるが、当日取材で使うのをジャパンタクシーにした。

7月5日は、ジャパンタクシーを運行している会社に電話をかけて「明日7月6日に取材も兼ねて乗車をしたいためジャパンタクシーを1台お願いしたい。」と用件を伝えた。

7月6日、予定していた時間にジャパンタクシーが来た。しかし、スロープを出してから乗車するまでが長かった。運転手も、ジャパンタクシーに車椅子を乗せたことがない初心者だった。運転手が説明書を出して、説明書通りにした結果、スロープを出すのにも時間がかかり、固縛にも時間がかかり、スロープをしまうのにも時間がかかった。結局、スタートしてから45分もかかってタクシーが出発した。ちなみに日産自動車のNV200だと一連の動作を5分程で行うことができる。

自分なら、一連の動作を終えるのに45分かかるタクシーには乗りたくない。ジャパンタクシーの問題点は、運転手の技量不足もあるだろうが、構造の複雑さ・分かりにくさが最大の問題点であると感じた。

全国の障害当事者がジャパンタクシーについて乗りづらいと口々に言っている理由が、すごくよくわかった気がした。



乗車中！

青森県身体障害者福祉センター ねむのき会館

ねむのき杯 ボッチャ大会に参加しました。

9月29日、ねむのき杯ボッチャ大会に初めて参加してきました。

「チームとまと」と「キンプリシューターズ」の2チーム体制で参加して「決勝で会えたらいいね♪」なんて話していたのですが…

今回は大会史上一番参加者が多く、15チーム。車いす選手が少ないということで、6人中4人が車いすのとまと2チームは、主催者から戦前予想として「圧倒的に不利」と断言されていました。



ボッチャ自体はやったことあっても、補助器具「ランプス(自分で投げられない方が使うスロープ状の道具)」を使ったことがなく、感覚をつかむのにちょっと手間取り、何ととっても、ランプスを使用する時は介助者はいっさいコートを見る事が出来ず、あくまでも選手の指示のみで動くので、伝える技術も必要になってくるというなかなか大変な作業もこなしつつ、緊張で体が上手く使えないなどもありつつも、日頃からボッチャをやりなれている方達の中で大健闘だったと思います。

「結果はともあれ、楽しんでボッチャをしましょう!最後まで笑顔で♪」と言っていた「キンプリシューターズ」は予選リーグ全勝で決勝リーグに進んだものの、惜しくも8位でした。

「負けたら他の試合を見ないでとっとと帰ろう」という話をしていたり、軽い気持ちでボッチャに参加していた人達も、試合が終わった頃には「自分たち以外の試合も観て帰りたい」という発言になるほどボッチャの虜になっていました。

来年は障害者スポーツ大会に障害区分ありでボッチャがオープン種目として取り入れられるので、そこに今年の悔しい気持ちをぶつけていこう!!という話もチラホラきこえてきています。

ヒトを魅了するスポーツ「ボッチャ」に触れた一日でした。



ボッチャ試合風景



勇樹的 MY WOLRD

台風の影響で…。

前号に続けて勇樹的 MY WOLRD です。

前号でも書きましたが今年の秋にアーチェリーの登竜門であるグリーンバッジを取得しようと週末猛練習中です。との記事を書き紹介しましたが先月9月30日に県選手権があり、その大会でグリーンバッジを取得しようと思っていたのですが残念なことに台風24号の影響で大会中止になってしまいましたので取得できませんでした…。

今回の記事でそのことについて書こうと思ってたので残念です。

気温も寒くなってきたので今月上旬から外での練習から室内練習に移行し練習場所がねむのき会館から青森市スポーツ会館に移りました。

インドアでもグリーンバッジは取れるので練習回数は減ると思いますが頑張りたいと思います。



とまとの収穫祭 ねぶた小屋散策

8月の収穫祭は『ねぶたの活気に溢れている青森を堪能しよう!!』という予定でいたのですが…、運悪く、朝から小雨が降ったり止んだり風も強かったせいで、ねぶた小屋も開いていなく、露店もことごとく閉まっていたのでした。普段食べれない屋台のウまいものを食べ歩きをしようと思っていた一同はがっかり。また小雨も降ってきたので、とりあえず観光物産館アスパムの中へ。商品を見て回っていると色々面白い商品が。そのひとつが津軽弁缶バッジ。ネットで話題になっているそうで…(知らなかったけど) 津軽弁と『標準語訳』と『英訳』…っ英訳!!!! ?みんな一つ一つ手に取り、「これなに?」「聞いたことない言葉がある」などなど。思わぬところで一盛り上がり。



盛り上がったデジションで青い海公園にて記念撮影。海風を感じながら次の目的地に移動したものの、フラッセ横も駅前広場までも屋台が軒並み閉まっている…。そのせいで近隣の食堂もとんでもなく混みこみ。仕方なく駅ビルにてお昼を食べる事になりました。

ねぶた時期の混雑だけはしっかり体験させられたものの『みんなで食べればどこで何を食べても美味しいね♪』ということで、美味しい海鮮丼を食べつつ楽しいひと時を過ごしました。



函館日帰り旅行

平成30年10月5日(金)、Ping あおもり・スタジオとまと創設以来初めての、「大型バス移動」による日帰り旅行を敢行した。

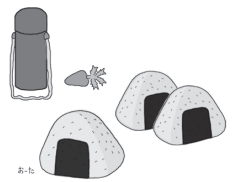


さすがに個人で手配するのは無理だろうと思い、施設等の旅行に実績のある共和トラベルさんに相談。残念なことに青森県内には車いすごと乗れる大型の観光バスはなく(1台だけあったものが故障していて今後使える見込みが立っていない)、函館まで行けば何社かありますよ、とのこと。

北海道新幹線で約1時間と、ぐっと近くなった函館まで足を延ばすことにした。

参加者は車いす使用8人、その他7人(介助者は6人)。当初、新幹線には車いすの人はグリーン席を含めて2名までしか乗れない、とJR。共和トラベルさんの交渉で何とかみんなで行ける事となった。

出発の数分前に北海道の胆振地方で震度5弱の地震が発生し、出発が遅れたりと気をもませたものの、10分程度の遅れで新函館北斗駅に到着。駅の一階にある「北斗の拳 ケンシロウ」銅像前で記念写真を撮ってから、初めてのリフト付き観光バスに乗って函館市内観光へと出発した。詳細はFBをご覧ください!(佐藤)



☆スタジオとまとオリジナル年賀状・喪中はがき ご注文承ります

☆忘年会 12月8日(土) 青森国際ホテル 17:00~



編集後記

- 「原子力発電」を「核発電」とよびましよう作家の村上春樹さんがいっている。賛成です。(広)
- 自動車免許取得から数十年経って一人で運転しました。一人で運転するとスピードが出てあせります。(J)
- 車いすごと10人が5分で乗れる観光バスがほしいと思います。(真)

- しばらく体調が微妙だったのですが、アレルギーがあったようです。原因物質はまだ不明ですが、小麦が怪しいです。(西滝)
- ブラックアウト。3.11を思い出した。(s.s)
- 友達の兄弟がSNSで手作り販売しているぬいぐるみが、浅草古民家カフェ apricot に。立ち寄った際には手にとって欲しいなあ。(す)
- 数年ぶりに岩木山神社に行きました。天気が良く、紅葉がきれいであれしくなりました。(A)